

# がんの教室

田中 伸哉

⑩

がんが怖いのは転移や再発があるからだ。転移と再発のちがいは何か。さらには「転移再発」という状態もある。これらの言葉の違いは意外と知られていない。

転移とは、がんが発生した部位から血液やリンパ液の流れに乗って移動して、離れた場所で大きな固まりとして増え始めることだ。

## 転移と再発のちがいは

がんを摘出する手術の時に、転移が見つかることがある。以前、知人の外科医が30代後半の男性の胃がんの手術を行った。手術前のコンピュ

## 発生の時期と位置みて

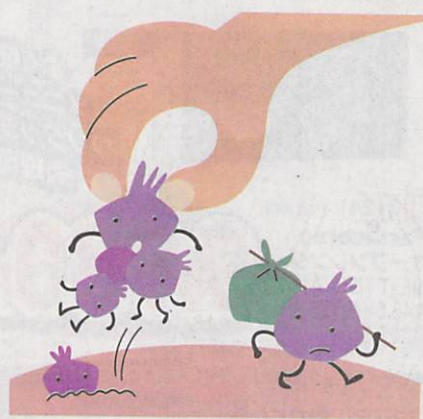
するしかなかった。一方、再発とは文字通り、がんを手術で取り除き一度は治った後、時間がたつて再び発生することだ。

今、がんは抗がん剤、分子標的薬、放射線など治療の進歩はめざましい。昔は治らないとされていたがんも一度は体から消すことができるようになってきた。胃がんや大腸がんなど比較的早期に

発見されやすいがんは、一度は治ることも多い。しかしその後、2年から3年で再度発生、つまり再発することがある。再発する部位は、ある時はもとのがんがあった場所(原発巣という)に起こり、ある時は離れた場所に起こる。離れた場所にできた場合には「転移再発」と呼ぶ。

ター断層撮影装置(CT)検査ではがんは胃に直径4センチのものがあるだけ、のはずだった。

しかし、おなかを開けてみると、CTにも写らない直径3センチ程の細かい転移がおなかの中に無数に見つかった。これではもう手の施しようがない。外科医は手術を諦め、何もしないでおなかを閉



再発を防ぐには、がんが再発するしくみを明らかにすることが重要だ。近年、このしくみについて新たなことが分かってきた。次回の講義でこのことについて説明したい。

(北大医学部腫瘍病理学教授)